

114
A 3210

大正十一年四月
大隈侯爵郵寄贈



外國貿易之推理實益專有之義ニ付
意見ニ大畧

我國物産外國ニ賣捌之道ヲ盛ニ相開キ内國
ヨリノ製出ヲ催促シ漸次ニ我輸出之總額ヲ増
加シ且我諸開港場ニ居住スル外高カ收獲スル
所ノ利益ト權勢トヲ削減シ彼等ヲシテ自然ニ
倒斃之地ニ就カシムハ種ノ三年ヲ期シテ其功
ヲ奏シ而後政府ヨリ外國貿易上断然非常ニ
御慶置アラントシ嘗テ期望シ此目的ニ達スル
ニ方法ニ勉勵致居候處昨冬來歐洲諸國ヲ巡

田之専ラ勸業貿易之事務ノミニ注意シ現ニ
各國ニテ著明ナル進歩之効ヲ顯ハスノ實況
ヲ目撃シ感賞羨慕之餘リ即今我内國之形勢
ヲ顧レハ殆ト多難危殆之時ニシテ迎モ此上
三年之光陰ヲ費シ内外之事務ニ順序ヲ追テ
措置ス可キ猶豫ハ無之ニ付自今断然施行之
順序ヲ急ニシ速ニ目的ニ通結果ヲ得ヘキノ
捷徑ニ急歩スルハ時勢不得止義ニ有之依テ從
未我諸開港場ニテ外商ニ委付セシタケノ利益ト
推勢トヲ移シテ我人民之手ニ收ムルノ方法ニ

盡カセラレ候様御決心相成度候
開港ノ始ノ我人民ハ未タ外國ニ渡航シ我物
產ヲ賣出スノ氣力ナク且其方法ヲ知ラサリ
シカ為メ咎シテ彼ヨリノ來需ヲ待テ開港場ニ
テ賣込ヲ為シタルノミニ付後今時トシテ外商ニ
向テ貿易場之戦ヲ試ルモ居留地ハ即彼カ城
壘ト為リ常ニ彼ノ爲メニ全勝ヲ制セラレハノ勢
ナルハ年来目撃スル所ナリ到底居留地ヲ保存シ
置クノ間ハ我權理ト實益トヲ妨ケラル、ヲ不少
猶ホ搦立之名マツテ搦立之實ナキカ如シ因テ

所謂攘夷之精神ヲ蓄養シ富國之方法ヲ施設
シ一日モ早ク居留地ニテ外高カ專有スル所
ノ貿易上之利益ト威權トヲ奪取セサル可カラス
尤實際之上論辨ヲ以テ彼ヲ逐フニ非ス海陸ノ
兵力ニ依リテ彼ヲ攘フニ非ス只信義ヲ以テ
彼ニ交リ寛裕ヲ以テ彼ヲ遇シ而我貿易上ノ實
力ヲ蓄ヘテ彼ヲ退敗セシムルニ若シ果
シテ今日在留之外高ヲシテ過半其店ヲ閉サシムル
ニ至レハ則今日迄彼ニ屬シタル貿易之權理自ラ
我人民ニ歸スヘキハ疑ヲ容レサル也尤當ニ一方ノ

損分ハ即他ノ一方ノ益分ト爲ルニナラス貿易市
場之損益ハ世上一般之融通ヲ或ハ缺キ或ハ助
クルニ依リ其影響全國中ニ及フハ必然ナリ依テ
我國獨立之實果ヲ得ントスルニハ居留地ノ外高カ
所有之權理ヲ奪取スルヨリ急務ハ無之候
開港以來巨額之金ヲ消費シ其返償タル實益
ハ未タ内國ニ在ラ之ヲ見ルニ至ラス彼ノ人智
開進學術發達鐵道電信之築造海陸軍之整備
等ノ如キ各種ノ進步ハ素ヨリ瞭然見ル可シト
雖氏未タ之ヲ以テ理財上ノ實益ヲ起スニ至ラ

ス抑國カ富饒トハ何ソヤ田地之開墾山林之
培養農事之增益製作之昌盛貿易之繁榮等ヲ
指シテ云者ナリ是等之實効ハ今日猶未タ稀
有ニ属スルヲ以テ開港以來之貴財ハ衰ク之ヲ
損失ト看做スモ敢テ不可ナルニ非ス加之我國
ニテ物價騰貴ニ紙幣發行之高増加シタルモ外
國貿易ノ為メ我人民貧困ニ影響多キニ居ル者
ナレハ併テ之ヲ損失之部ニ算入セサル可カラズ
若シ今後政府ヨリノ保護ニ依リ農産製作等顯
然進歩之効アルハ則物價之騰貴モ紙幣之増加

モ利害得失相當フヲ得ヘキハ必然ニ付素ヨリ
患フルニ足ラサル也

是迄勸農勸商局等ニテ農業製作貿易之保護
方ニ着手アル氏今後更ニ高務局ニテ一層專任ニ
断然盡カシテナクテハ不相成候我諸物產外人之
仲買ヲ經ヌ我國國民ヲシテ直ニ外國ニ輸入セシメン
トスルニハ人民私立ノ會社ノ財本ニテハ存續ノ力
薄ク且盛大之事業モ運ニ難ク既ニ昨年来三井
物産會社起立工高會社ハ佛國ニ支店ヲ開キ我
物產ヲ賣捌キ居レ氏如此キ微ニタル高業ニテハ

決シテ貿易之権理ヲ占有シ我國ニ在ル外高
ヲシテ倒斃ニ就カシムルヲ期ス可カラス依
テ高務局ニ於テ外國貿易ノ資本金ヲ積ミ之
ヲ人民ニ貸与シテ其營業ヲ保護相成度候
迄未輸入物品ハ其製作人ヨリ直ニ我高民ニ
買取スルノ道ナク必ス外人ノ仲買者ヲ經テ初
テ我國ニ輸入スルヲ得輸生物モ亦我人民ヨリ
外高ノ仲買ヲ經テ外國ニ輸入スルノ順序ニ
有之候タノ年ニ輸出入之間ニ於テ大金融通
之カヲ外高ニ委シ加之我物産ヲ外高ニ賣渡

ニ當リ彼カ貿易之形勢ヲ詳カニセサルニ依リ有
價之物品モ現ニ彼カ計策ノ為メニ其價ヲ減セ
ラル、ト不少且諸物品トモ追々價格ヲ上スヘキ
様改製之法ヲ知ラサリシニ付我ニ得ヘキノ利益モ
之ヲ失フ、ト多シ就テハ今後我國人ヲシテ仲買
之権ヲ握リ直ニ外國ニ於テ貿易ヲ為サシメハ
則帝ニ外高仲買カ得シ所ノ利益ヲ我人民ニ移
スノミナラス之カ為メ我人民カ實地智識進達之
功少カラス且貿易之際親ク外人カ使用ト愛好
トヲ目撃シ其景況ニ應シテ彼カ渴望ヲ起コサ

シム可キ様製作之趣向ヲ精良更革之道ニ注
意スルヲ得ヘク殊ニ從來外人ニ屬セし野ノ
我物産ノ價格ヲ定ルノ權理モ今後ハ獨リ我
人ノニ屬シ自由ニ其價值ヲ昂低スルヲ得
得ルニ到ル可シ
試ニ一例ヲ舉テ之ヲ云ハ、自昔琉球島人カ我
内地ノ貿易ヲ為セシト雖モ島人ハ内地ニ入ル
トヲ得ス薩摩ヲ除クノ外内地ノ人民ト直ニ高
賣ヲ為スヲモ不相成唯薩摩人ニ回島ノ產物
ヲ賣出スノ一路アリシノニサレハ薩摩人ハ琉球

ニ向テ威勢ヲ專ラシ貿易之自由ヲ占メ獨リ
其利益ヲ壟斷シタルカ為シ大ニ豊富ニ至リシニ
於琉球ハ夥多之物産ヲ有シナカラ相當之價格
ヲ保ツヲ能ハスニテ貿易之贏利ナカリシ者ハ全
ク薩摩人ノ為メニ制セラレタル故ナリ是レ猶ホ今
日我國ニテ居留之外高ヲ經テ我物産ヲ外國
ニ輸出スルノ有様ヲ見ルカ如シ外高自ラ肥ヘ我
人民漸ニ疲セハ当然之理ニ有ツ候
英國ノ印度トノ貿易ニ專賣之權ヲ有シタル
ノ例ハ千七百五十年以來英政府ヨリ一ノ東方

貿易會社ヲ扶助シ且兵力ヲ以テ之ヲ保護シ
テ獨リ貿易之利ヲ壟斷セント謀リタリ其頃
英國人民中ニテ政府之處置ハ公法之正理ニ
戾リ宜シカラストノ抵抗論ヲ發シタル者モアレ
共政府ハ斷然疑ナク專ラ保護之方法ニ力ヲ
竭シタルヲ以テ終ニ其目的ノ如ク該會社ノ勢
ハ盛大ニ到リ兩國間貿易之全權ハ獨リ之ヲ
握有スルヲ得テ印度人之利分減少シ其財
源自ラ乾涸ニ歸シタリ抑英國カ印度ヲ占領
シタルハ其兵力ニ依ルニ非スニテ全ク貿易上ノ

權ヲ操リテ金貨運轉ヲ善クシタルノ力ニ依ル者
ナリト理財學者カ評論スルモ誠ニ其理アリ後
来若シ永ク我國ニ於テ居留地ヲ存シ置外人
之高業ヲシテ之愈ノ如ク盛大ニ至ラシムル等ノ事
アラハ則測ル可カラサルノ患ヲ醸生セントシ恐ル
ハナリ況ンヤ内外人雜居ヲ許サルノ日アルニ
於テヤ印度之前例ヲ鑑ミ自ラ及省熟慮セ
サル可カラスト存候

外國在留我公使領事等貿易事業ヲ保助裝進
ニ道ニ盡カスルハ即今之急務ニ付大藏省等ト

同意合カシテ間接直接ニ充分勉強ナクテハ不
相成是レ政府ハ固ヨリ其人民ノ幸福ヲ補助ス
ヘキ責任アル者ニシテ貿易之保護ヲ盡スハ
外國ニ對シテ自ラ誇ルモ敢テ不可ナルニ非サ
レハ也殊ニ於外國我物産ノ信用ヲ得世上之
流行ヲモ(并)導シ且外人ヨシテ一般ニ我國人カ高
業ノ堅固ナルヲ認識セシムルハ專ラ外交官
ノ注意ニ關ス博覽會ニテ我出品之賞譽ヲ受
タルモ畢竟一時ノ花ニシテ存クニ之ヲ保持スルヲ
得ヘキ者ニ非サルニ付外交官ヲシテ常ニ我精巧

良美ナル物品ヲ外人ニ誇示散布セシムルハ必要
之事也抑遠大ナル望意ヲ遂ケントスルニハ最初
若干之消費ヲ要スルハ勿論ニ付此目的ヲ以テ
外交官ニ待遇ヲ被与候様致度候

是来外國ニテ我商人資本之ヲ營業堅カラサリ
シカ為シ免角信用ヲ缺キ昌大ナル貿易ヲ為
スヲ能ハサリシハ更ニ贅言ヲ待タズ就テハ新ニ政
府ノ命ヲ帶タル貿易事務取扱之委員ヲ派出
シ之ニ必要ナル名ト相當ノ權トヲ付与シテ外國
貿易之事務一切ヲ擔任セシメ後今内實政府之

官員ニ命セラルモ外國ニ對シテハ政府ヨリノ信
任アル者トシ且其人員ニ屬スル諸費ハ全ク政府
ノ歲出ニ屬シ公使館領事館等之經費ト同一
ニ看做ス可シ此費用ハ決シテ貿易資本金ノ
部ニ算入シ所得金中ヨリ返償スルナキ者トス
政府ヨリ資本金ヲ出シテ人民ニ貸与スルモ素
ヨリ政府自ラ商業ニ關係シ利益ヲ得ントスル
ニ非ス只此資本金ヲ以テ私立會社ヲ保助シ
テ農工諸産業之基本ヲ鞏固隆盛ニセントスルノ
ニ尤物品ヲ外國ニ輸出スル等之事ハ全ク高務

局之責ニ任シテ人民ニ關係ナキ者トスト雖是
亦タ内國ノ為メニ利益ヲ附加シ外國ニ於テハ
信用ヲ堅固ニセント希圖スルノ主旨ニ在ル也
資本金ハ各地方ニ在ル私立會社仲買人ニ貸
付シ之カ利子ヲ取立テス且返納之期限無キ
者トス尤高務局ニテ年ニ產出スル諸物品之
高ヲ預算シ其大半以上之數ヲ買締ルニ是ル
ヘキ資本金ヲ貸与シ仲買人ヨリ日々買入シ
金高相場等ヲ同局ニ報告セシメ其荷物ハ直
ニ開港場ニ在ル高務局管理ニ處ニ運送シテ

之ヲ外國ニ輸出ス故ニ仲買人ハ物品ヲ買取
タルノ後急ニ之ヲ賣拂ハント欲スル患ナク
商務局ノ手ニテ充分之時機ヲ見合セ賣捌キ
タル上揚リ金高ニ内ヨリ當ヲ貸付シタル金
員ヲ回馬ニ收入シ且其物品ニ関シタル一切ノ
諸入費ヲ仕拂ヒタル残額ハ即所得金タルニ
依リ之ヲ其仲買者ニ与フ是レ資本金貸付方
法之大畧也

貿易之權理實益ヲ握收セシトスルニハ最モ注
意ヲ要スル一事アリ是レ貿易市場ニ於テ價

格最貴ク世上之需用殊ニ多ク且我國産ノ内
ニテ眼目タル取ノ生糸蠶卵紙之二種ノ製作
ニ充分注意シ輸出之道ヲ盛ニスルハ最大緊要
ナリ此他一切之諸産物モ今日迄ノ如キ製作
ニテハ逆モ永ク聲譽ヲ保テ利益ヲ得ルヲ能ハ
サルニ付益ニ改良精製ヲ加ヘ外人之渴望ヲ起
サシムヘキ様研究セサルヘカラス茲ニ生糸蠶卵紙
ヲ始トシ貿易品之内主要之公製作發賣方法
ノ大畧ヲ左ニ開列ス

生糸

産出之高可成増加スルヲ以同的トシ製作人
ヲ勸奨シ且之ヲ輸出スルニハ外國仲買者ヲ經
ス直ニ外國織物貯ニ賣込ト方宜シ如何トナレ
ハ彼ノ好ミニ應シテ注文ヲ受ルニ易ク且彼
ノ愛賞スル所ヲ觀テ製作ヲ改正スルニ早ク
加之直ニ引合ヲ為セハ年々一宜ノ高ヲ賣込
トナシ得ヘケレハ也若シ時々品柄ノ不同或ハ
記號ノ變換等アリテハ我信用ニ関スルト少
カラサルニ付最能ク注意スヘキ事也

蠶卵紙

造糸之方法ニテハ永久之輸出ヲ保スヘカラス依
テ蚕卵紙之數ヲ限リ充分精良ノ品ノミヲ製
出スヘキ様断然嚴重ナル取締ノ規則ヲ設ケ濫
製之弊ヲ防カステハ不相成尤是迄已ニ制限之
方法設置アレバ實地行ハレ難キ也若シ土地
ニ依リ製作之數ヲ限定セラレタル爲メ人民ノ營
業ニ多支ルトアルヘト觀ル時ハ別ニ之ニ代ル
ノ産業ヲ授ケ遊子之民ナカラシム可キ様處置
セサル可カラス抑蚕卵紙賣捌キニ付テハ通常之

物品高賣ト異リテ種々ノ方法アレ先ツ第一
政府ヨリ格別之注意ヲ以精良ノ品ノミヲ製シ
決シテ不良之物ヲ輸出セサルハ速ニ世人ヲ
シテ認識セシムルヲ要ス

繭

今後ハ可成繭ノ輸出ヲ為サス内國ニテ生糸
ニ製作シテ之ヲ輸出ス可シ従来外國ニテ繭
高カ得テ所ノ利益ハ實ニ夥多ナリ前文ノ如
ク蚕卵紙製造之高ヲ限リタル為メ營業ニ多
支ヲ生スル人民ナル地方ニテハ此製糸等ノ事

業ニ多クセシメハ可然

煙草

従前之製法ヲ改正セハ餘程ノ良品ト為リ四
倍以上之價格ニ上ル可シ日本之地味ハ煙草
ニ培養ニ適當ナリトノ世論モアレハ九州四國其
他ノ諸島ニ於テ多ク培養スヘキ様誘導すヘシ
就テハジャバ地方煙草製法傳習ノ為メ速ニ三
四名ノ島ニ派出シ命セラレ且西班牙政府ニ
於テハ其所屬諸島ヨリ煙草種ヲ他國ニ輸出ス
ルハ嚴禁ナレ氏我政府ヨリ試驗用トシテ彼烟

草種ヲ曰國政府へ請求相成度即今佛蘭西、伊
太利、白耳義、澳地利等ノ諸國ニテハ必要品ト為
リ需用頗ル多キニ付我政府ト各國政府トノ
間ノ談判ヲ以賣捌カハ可然

茶

昨年来改洲中ニテ日本茶追々相開ケ餘程良
品ナリトノ賞譽ヲ得タリ此上ハ益々精製之法
ヲ研究シ全ク純然タル日本茶タルヲ示シ決シ
テ支那茶等ト稱シ外國品ノ名ヲ附ス可カラズ
賣出之方法ハ最初病院、學校、藥店、寺院及其他

有益ノ人ニ贈与シ且新聞紙ニテ公告シ廣
ク世上ニ播布ス可シ然ル時ハ他日必ス多量
ニ需用ヲ來スハ疑ヲ容レサル也

米

日本米ノ糊氣強キハ少ク世人ノ實驗ヲ經タ
レ氏未タ多量ニ用ニ供スルニ至ラス今後日
本米ノ價ヲ引起サントスルニハ可成製糊場ニテ
使用セシムヘキ様周旋セサルヘカラス若シ一タヒ
信用ヲ得タランニハ毎年注文之高ヲ定メテ輸
出スルヲ得ヘシ是迄英國ニテ賣捌キシ様ノ

方法ニテハ甚々弊害アリ

材木并竹樹皮

昨年博覽會以來日本材木ハ世人ノ知ル所ト
為リ甚々賞譽ヲ得タリ今後日本ヨリ發船ア
ル毎トニ船足ノ積荷トシテ輸出有之度追々
各地製造所ヨリ注文ヲ受ク可シ輸出之材木
ハ可成丸木ノ俣ニテ引割ラサル者ヲ宜シトス
如何トナシハ板木ハ輸入税重ケレハ也
竹并樹皮等モ多ク需用アルヘキニ付許多ノ
見本ヲ出ス可シ

魚

歐洲中ニテ消費スル所ノ品頗ル多シ故ニ我
國ニテハ益ニ油漬ノ製法ヲ改正スルヲ要ス然
ルニ之ニ用フル所ノ油ハ一般ニ高價ニ屬ス
レテ伊太利ニテハ一リツトル代一佛ト立山ニテ
買取ルコトヲ得ヘシ尤我國ニテモ九州其他ノ地
ニテ急速橄欖ニ培養ニ當ルセサル可カラズ

寒天

歐洲ニテハホタ実験セサレテ将来巨多ノ輸出ヲ
開ク可キ品ナリ依テ麥酒製造場菓子屋織物

場料理屋等へ詳細ナル功能書ヲ添へ試験ノ
為メ贈与シ且常ニ製造家之新誌中ニ掲載ス
ルヲ要ス

貝類

歐洲各國殊ニ英佛澳等ニテ消費スル所多シ
然レ迄前ノ如ク全形ニ傳輸出シテハ運送費
多キニ依リ鈕釦用ニ供スヘキ程ノ大サニ切
碎キテ輸出ス可シ近來貝類ヲ切碎クニ便利
ナル器械ヲ澳國ニテ發見セリ

野菜豆類并醬油

此類各國ニテ消費スル所ノ高夥多要量ナリ
然レ日本品ハ未ダ世人之經驗セサル者ニハ料
理屋或ハホテル等へ贈与シ廣ク之ヲ實知セ
シメサルヘカラス日本醬油ハ英國製ノ品ヨリ
優等ナリト賞美スル人多シ且日本醬油ハ庖
厨ノ烹燒并食卓上ニテ魚肉等ニ灑キ用フルノ
兩便ヲ兼ル者ニ付陸海軍ノ需用ニ供セハ可
然ト云説アリ

絹織物

襟卷裏拭并黒地ノ織物ハ大ニ世人之愛好ヲ

来し賣捌キノ用途アリ此上漆法ヲ善クセサ
ル可カラス

紙

各國ニテ種々之用法アリ上等ノ品ハ堅牢ノ
書籍海陸軍用及學校用ノ地圖紙幣証書類等
ニ用ヒ又下等ノ品ハ包ニ紙及其他種々ノ用
方アリ是等之品ヲ賣ルハ最モ外交官ニ
テ注意スヘキ者トス依テ各種多量ノ見本ヲ
送出成度我印刷局抄紙部ニテ製作之紙類
ハ諸國ノ高人ニ委付シテハ不届

銅器、陶器、漆器及雜貨

迄前ノ起立工商會社支店ノ如ク日々小賣ヲ
為スノ方法ニテハ不届ニ付巴里府ニ一ヶ所
ノ列品場ヲ設ケ各國之大高ヲ招キテ之ヲ示
シ其望ニ應ヒテ却賣ヲ為ス可シ且精良ナル
製作品ハ年々歐洲中各都府ニテ開設スル博
覽會ニ出陳スルヲ要ス是レ仮令其物品賣捌
ケサハモ廣ク世人ヲシテ我工業ノ優秀ナルヲ知
ラシムルカ爲メ隱然利益ヲ得ル少カラシハ也
我國ヨリ是等ノ物品ヲ輸出スルニハ二様ノ方

法ヲ以大別ス可シ即其一ハ尋常賣捌ケ易キ
分ハ彼ヨリノ注文ニ應シ諸方ニ送出ス可キ
者ニシテ其二ハ非常ニ精巧ナル細工物ハ常
ニ我領事館并貿易事務局及通信局等ニ陳列
シ置之ヲ望ムノ人アルヲ待テ賣出ス可キ者也
尤此種類ノ製造品ハ素ヨリ玩弄具ニ屬シ日
用必要ニ非サルヲ以テ些少ノ高業ニ似タリ
ト雖凡唯賣弘メノ方法ヲ善クシ世人ノ愛好
ヲ絶タサレハ將來夥多ノ貿易品ト爲ルハ必然
ナリ

外國派出委員事務取扱規則并事務取扱所設
置之地名及名所人員等見込之大畧ヲ尤ニ掲
記ス

本局

外國貿易事務ヲ專任シ之ニ関シタル一切ノ文
書ヲ受理整備シ生納之計策ヲ綜理シ内務省
大藏省等ヨリノ照會ノ旨ヲ執行シ且其意見
ヲ開申シ外國ニ在ル公使領事等ト協議シテ
必要之處置ヲ爲シ諸分局及通信局ヲ管理シ
之ヲ新設又ハ廢止シ及本邦官民ト諸分局及

通信局トノ間ニ往復スル書類ヲ取次キ毎月
西度宛報告書ヲ調製シテ高務局ニ出シ其写
ヲ分局及通信局ニ分付スルノ處トス

分局

本局ヨリノ命令ヲ遵守シ本邦官民トノ間ノ
書翰ハ一切本局ヲ經由シテ往復シ毎月西度
宛報告書ヲ本局ニ出シ且本局ヨリ送付ノ物
産見本ヲ以卸賣ヲ為シ其計算ヲ本局ニ出ス
ノ處トス

通信局

分局取扱フ所ニ同シ但時宜ニ依リ開店シテ
我物産ヲ賣スルモ妨ナキノ處トス

佛國巴里府

右本局ヲ置ク

佛國巴里府 製造品專務

曰國里温 生糸專務

英國倫敦府 農產物(製造品)專務

右一等分局ヲ置ク

白耳義國アンベルグ港 農產物專務

伊太利國ミラン 生糸(蚕卵紙)專務

右二等分局ヲ置ク

佛國馬耳塞港 以下諸產物ヲ取扱フ所トス

曰國リール

獨逸國柏林府

澳地利國維納府

曰國トリエヌト港

撒遜國ドレスド府

伊太利國チニラン

曰國ヴェニス港

右通信局ノ置ク

右ハ月今貿易之形况ニ依リ緊要之場所ノニ
ヲ掲ケタレモ尚今後進ニ増加之見込

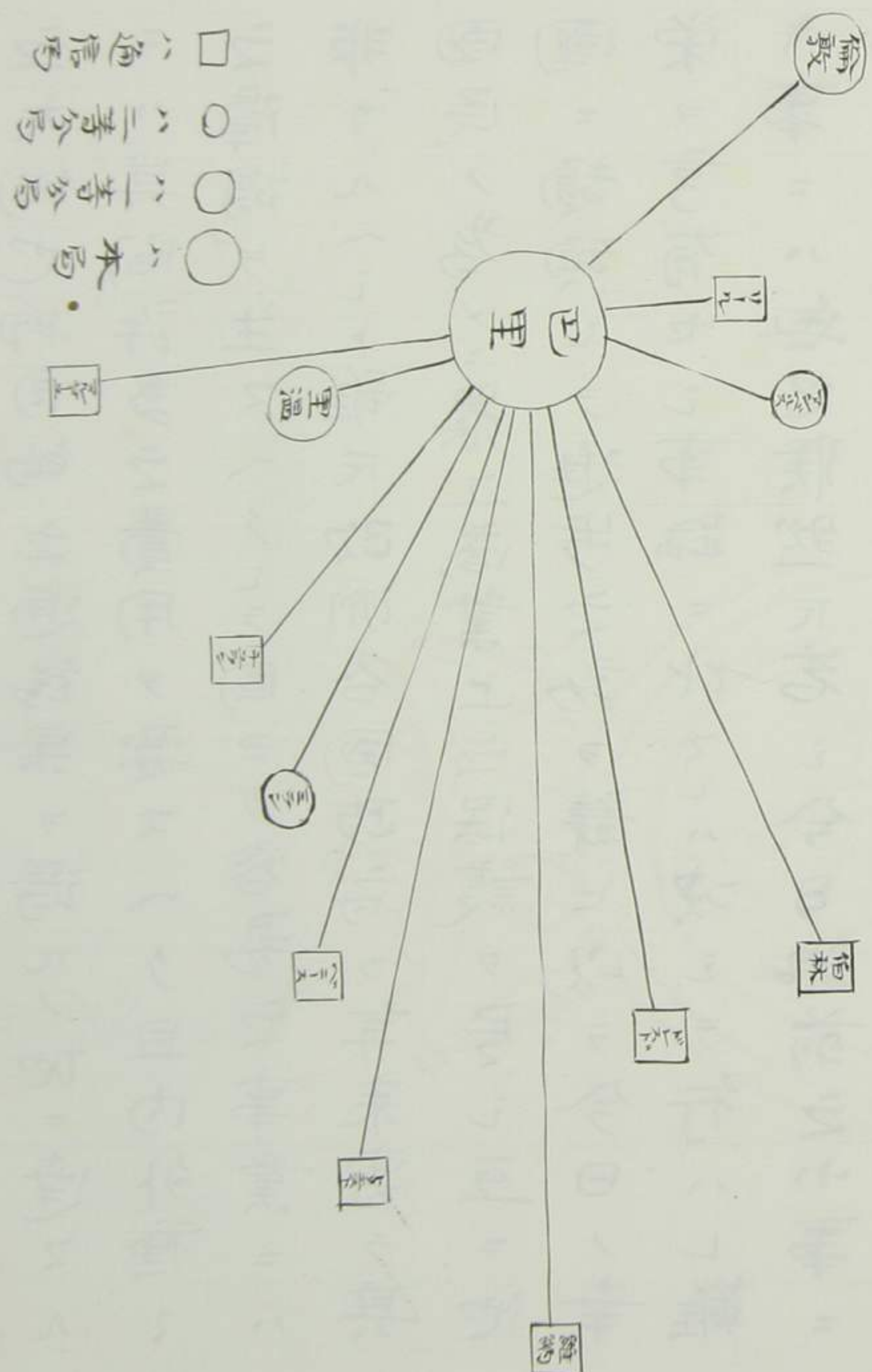
本局人員

長官	一名	内一名外國人
書記掛	二名	内一名通譯
農産物掛	二名	内一名通譯
製造品掛	二名	内一名通譯
會計掛	三名	内一名外國人
一等分局		
日本人	二名	
外國人	一名	

二等分局
日本人 一名
外國人 一名

通信局

当分ノ内日本人ヲ派出セス其地居住ノ外國人ニ委託ス尤無給ノ見込



右ハ外國貿易之權理實益ヲ收握スヘキ方法
之大綱也抑同的之通結果ヲ得ルノ地ニ達スル
ニハ其間許多之費用ヲ要スヘク且内外種々
之障礙ヲ生マヘク此固ヨリ容易之事業ニハ
非サルヘシト雖氏歐洲各國政府カ年来專ラ其
國民ノ為メニ農工商業上之保護ヲ尽シ互ニ他
國ニ頡頏シテ進歩之効ヲ競ヒ以テ今日ノ幸
榮ヲ亨有セシ事跡ニ比スルハ決シテ行ハレ難
キ事ニハ無之雖然氏若シ今日眼前之小事ニ
妨ケラレ富子ヲ果サス時日ヲ遷延セハ則内國

ニ於テハ百般之進歩萎靡中止之憂アリ外國
ニ向テハ對等獨立之國權ヲ保持スルヲ能ハ
サル之恐アリ加之即今我國ニテ理財上大関
係アル洋銀之權勢ヲ奪ヒ其價位ヲ失ハシムル
ヲ期ス可カラズ依テ政府ニ於テハ毫モ踟躕
ナク必成之精神ヲ以断然以急務ニ盡カセラ
レ一日モ早ク外國貿易之權理ト實益トヲ獨
有スルノ場合ニ運ハセ度偏ニ冀望之至ニ堪ヘ
サル也

MAISON A. GIROUX
PARIS
45 Boulevard des Capucines

y. z

gg

